学校番号	319

令和３年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「家庭基礎　自立・共生・創造」　（東京書籍）						
副教材等	家庭基礎　学習ノート（東京書籍）　Ｎｅｗ家計管理マスターシール（教育図書）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇家庭生活に関心をもち、よりよい生活をめざして積極的に取り組みましょう
・衣食住、消費生活、福祉、家族に関してワークシートを通して理解を深め、知識を身につけます。
・実習を通して科学的な理解に基づいた確かな技術を身につけます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、生活を改善する力をつけます。

２　学習の到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族･家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち､その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに実践的な態度を身につける。	人の一生と家族･家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて生活の向上を図るための課題を見いだし、思考を深め､適切に判断し､工夫し創造する能力を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉､衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 実習計画 実習記録表	学習状況の観察 ワークシートの記述 実習計画 実習記録表 発表	学習状況の観察 ワークシートの記述 実習計画 実習記録表 発表 実技　製作品	学習状況の観察 ワークシートの記述 実習計画 実習記録表 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	自分らしい人生をつくる　子どもと共に育つ　高齢社会を生きる	・自分を見つめる、共に生きる家族、家族に関する法律、労働と生活時間 ・子どもを知る、発達のすばらしさ、子どもの生活、親になること、健やかに育つ環境 ・高齢者を知る　介護サービスの利用	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	a:青年期の生き方、家庭の役割、子どもの発達と保育、高齢者の生活について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 青年期の生き方、家庭の役割、子どもの発達と保育、高齢者の生活について課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:事例研究などを通して、青年期のあり方、家族のあり方を検討したり、子どもや高齢者に適切に関わる技術を身につけている。 d:青年期の課題、家族の意義、子どもの発達、高齢者の生活について理解し、家庭、地域社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身につけている。	

2	衣生活をつくる　食生活をつくる　ホームプロジェクト	・人と衣服のかかわり、衣服の素材、衣服の管理、被服製作 ・私たちの食生活、栄養と食品のかかわり、食品の選び方と安全、調理の基礎、これからの食生活、調理実習 ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	○ ○ ○	○ ○ ◎	◎ ◎ ○	○ ○ ○	ａ：:被服の機能、素材、管理、製作や、栄養や安全を考えた食生活について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 ｂ:被服の機能、素材、管理、製作や、栄養や安全を考えた食生活について課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:快適な衣生活を営むために必要な計画、裁縫技術を身につけている。また、安全で健康な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理に関する技術を身につけている。ホームプロジェクトを実践することができる。 d:被服材料、構成、管理などについて科学的に理解し、健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理に関する知識を身につけている。	
3	経済生活を営む　住生活をつくる	・消費生活と社会の変化、消費者の責任、経済のしくみ ・人と住まいのかかわり、住生活を計画する、安全な住まい環境	○ ○	○ ◎	○ ○	○ ○	a: 消費生活や経済の仕組み、安全で環境に配慮した住生活について関心をもち、意欲的に学習しようとしている。 b: 消費生活や経済の仕組み、安全で環境に配慮した住生活ついて課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:消費生活、生活設計を立案するための技術、安全で快適な住生活を営むための技術を身につけている。 D 住生活や生活設計、住居の機能、住環境などについて科学的に理解し、主体的に消費生活や住生活を営むために必要な知識を身につけている。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。